# 地方都市の夜の繁華街の活性化に向けた取り組みに関する研究

宇都宮大学　学生会員　○浦橋　誠　宇都宮大学　正会員　大森　宣暁
宇都宮大学　正会員　長田　哲平

## １．はじめに

### (1)研究の背景・目的

近年，夜間における経済活動（ナイトタイムエコノミー）が地域活性化のキーワードとなっており，観光庁[1)]は，夜の時間を活用した消費の拡大が地方創生の切り札と位置付けている．ナイトタイムエコノミーはインバウンドの需要を満たすだけでなく，地方経済の活性化と住民のサードプレイスとしてコミュニケーションの場を生み出す．バーやスナックといった夜の繁華街を代表する店舗は，1960 年代から始まった高度経済成長に地方都市の中心市街地にも数多く出店し，各地で特色のある繁華街を形成した．しかし，バブル崩壊以降は小規模な店舗ほど経営が困難になった．そのため全国の地方都市における夜の繁華街は衰退し，今では店舗の老朽化や経営者の高齢化による事業継承，来訪者の高齢化などが深刻な課題となっている．

本研究では，地方都市のナイトタイムエコノミーの中心となる繁華街を対象に，活性化に向けたこれまでの取り組みを整理し，その結果をもとに新たな取り組みの提案し実施する．取り組みに対する来訪者の印象を調査し，取り組みの効果を計測している．また，2020 年からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあることから，新しい生活様式を踏まえた今後の繁華街の在り方についての考察を行う．

### (2)既存研究・本研究の位置づけ

先行研究として，菅野ら[2)]は，宇都宮市の中心市街地に存在する繁華街で来訪者に対しアンケート調査を行った．来訪者の実態や衰退傾向にある繁華街に対する印象を把握し，繁華街の衰退の原因として負のイメージがあること，情報の発信不足を指摘した．

また，新型コロナウイルス感染症による都市への影響を国土交通省都市局[3)]は，まとめ，今後の都市の在り方について，ウォーカブルな空間やオープンスペースが重要であるとし，オンライン化に依らないコミュニケーション活動の場が必要であるとした．

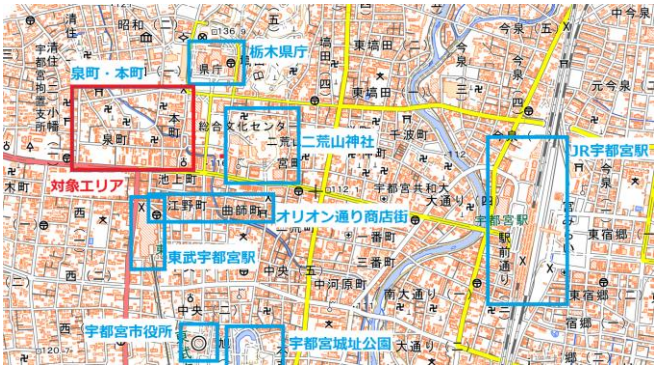


図１　対象地の位置関係

以上より，本研究では，宇都宮市の夜の繁華街である泉町・本町を対象とする（図１）．特に本研究は，対象地域の店舗の営業状況を比較し，通行量調査からコロナ禍における夜の繁華街の影響を把握する．加えて，これまでに行われてきた活性化に向けた取り組みを整理し，対象地の来訪者にアンケート調査をすることで，取り組み前後での繁華街に対する印象の変化を分析する．また，オープンスペースを利用した新しいイベントを実施し，得られた知見をもとに今後の繁華街の在り方を考察している

## ２．対象地の現状

### (1)営業店舗数調査

現状として現在対象エリアに店舗数とコロナ禍において各店舗の営業状態を調査した．過去に菅野が行った調査[2)]によると，平成 30 年 6 月の時点において営業が確認できた飲食店（接 待を伴う飲食店を含む）は 323 店舗中 321 店舗であった．2020 年 4 月の緊急事態宣言の発出直後において飲食店舗数は 296 店舗となっており，全店舗中 19 店舗（6%）の営業を確認，129 店舗（44%）が張り紙等で営業自粛の明示を行っていた．その後，7 月上旬には 147 店舗（50%）の営業を確認し，8 月の下旬には 206 店舗（70%）の営業を確認した（図２）．対象地における飲食店の店舗数は減少傾向にあり，また，2021 年 1 月に緊急事態宣言が再発出されたため，再度，調査を行った．

キーワード　ナイトタイムエコノミー，地方創生，中心市街地，繁華街，Covid-19
〒321-0912 栃木県宇都宮市陽 7-1-2 宇都宮大学地域デザイン科学部　TEL：028-689-6224　E-mail：plan@cc.utsunomiya-u.ac.jp

(2)通行量調査

来訪者の数を把握するため，泉町・本町のメインストリートである「泉町通り」を対象に通行量の計測と個人属性の分類を行った．調査にはビデオ撮影を用い，結果を**図３**に示す．全体として壮年（35 歳～65 歳）の割合が高く，男女比では通行量の 70～80%を男性が占めるという傾向が見られた．イベントの告知や，コロナ禍関連の報道によって通行量に影響があるかを分析する．

## ３．アンケート調査・取り組みによる効果

(1)活性化に向けた取り組みの整理・アンケート調査

対象地の活性化に向けた取り組みとして宇都宮大学都市計画研究室と NPO 法人宇都宮まちづくり推進機構が共同で「泉町活性化プロジェクト」を 2018 年に開始した．これまでに行われてきた取り組みを整理したものを**表１**に示す．本研究以前に，泉町を対象にしたアンケート調査が二回行われている．今回行ったアンケートと比較し，これまでの取り組みとによる効果を分析する．アンケートの概要を**表２**に示す．

(2)新たな取り組みの提案・実施

新しい生活様式を踏まえた新しい取り組みとして，実験的に低未利用地及びオープンスペースを利用した屋外飲食空間のイベントを実施した（**図４**）．また，異分野融合の取り組みとして，先端光工学の学生と共同し光演出（虹色 LED 照明の設置，プロジェクションマッピング）を用いた飲食空間のデザインを行い，来訪者に与える印象についての分析を行う．

## ４．終わりに

今回の調査ではコロナ禍における影響が強く出ており，純粋な実施効果を測定するのは困難である．今後の課題としては，今回のコロナ禍の影響を受けどれだけの店舗が営業を再開するのか，継続が不可能になった店舗がいくつあるのかを継続して調査する必要がある．また，繁華街の活性化においては長期的な取り組みによる効果を見る必要がある．

## 参考文献


1) 国土交通省観光庁観光資源課：ナイトタイムエコノミー 推進に向けたナレッジ集，2019 年．
2) 菅野健，大森宣暁：地方都市歓楽街の特性と情報提供，日交研シリーズ A-767，pp.15-43．
3) 国土交通省都市局：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性，2020 年 8 月


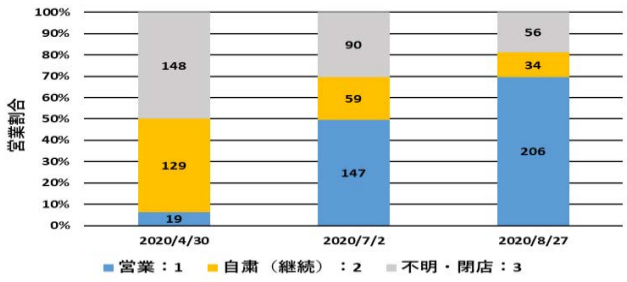


図２　店舗の営業状況推移

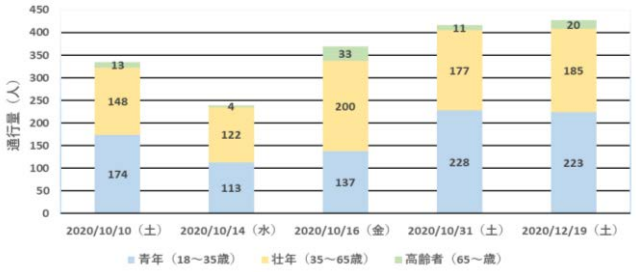


図３　通行量（年齢別）

表１　泉町活性化プロジェクトの取り組み

| 日付 | | 内容 | |
|---|---|---|---|
| 2018年 | 6月 | 第1回泉町活性化PJ会議 | 意見交換,泉町・本町の問題点共有 |
| | | 店舗調査(H30年度) | 泉町・本町内の店舗数の調査 |
| | 8月 | 第2回泉町活性化PJ会議 | 交通規制,通りの明るさ,情報発信について |
| | 11月 | 第3回泉町活性化PJ会議 | 国内・海外の都市を参考にした意見交換 |
| 2019年 | 1月 | 第4回泉町活性化PJ会議 | これまでの振り返り,HPの作成 |
| | 8月 | 第5回泉町活性化PJ会議 | ライジングボラード,照明に関する検討 |
| | 9月 | 泉町ウェルカムライト実施 | 「泉町通り」計8台の照明を設置 |
| 2020年 | 2月 | 第6回泉町活性化PJ会議 | イベント実施報告,HPについての協議 |
| | 5月 | 店舗調査(R2年度1回目) | 店舗数調査,営業実態調査 |
| | 7月 | 店舗調査(R2年度2回目) | 店舗数調査,営業実態調査 |
| | 8月 | 店舗調査(R2年度3回目) | 店舗数調査,営業実態調査 |
| | 9月 | 第7回泉町活性化PJ会議 | 照明による景観向上の検討 |
| | 10月 | レインボーライト設置点灯 | 通り及びビル壁面にLED照明の照射 |
| | 12月 | 屋外飲食空間実施 | オープンスペースを利用した賑わいの創出 |
| | | 夜のスタンプラリー | 泉町・本町への来訪者誘致イベント |
| 2021年 | 1月 | 店舗調査(R3年度) | 店舗数調査,営業実態調査 |

表２　アンケート概要

| | | |
|---|---|---|
| 実施日 | 2020年10月10日(土),14日(水),16日(金) | 2020年10月23日(土),24日(水)<br>12月11日(金),12日(土) |
| 実施時間 | 21時～24時 | |
| ライトアップ期間 | 2020年10月19日～2021年1月7日 | |
| 対象者 | 泉町・本町への来訪者 | |
| 回答方法 | アンケート・直接回答 | |
| 項目及び概要 | ・ライトアップ前に調査<br>・コロナ禍における調査<br>・個人属性：<br>性別，年齢，職業，居住地，勤務地<br>・活動実態<br>飲みに行く頻度，交通手段 | ・ライトアップ後及び<br>野外飲食空間実施中に調査<br>・コロナ禍における調査<br>・個人属性：<br>性別，年齢，職業，居住地，勤務地<br>・活動実態<br>飲みに行く頻度，交通手段 |

図４　屋外イベント実施の様子